



まちづくり通信



今回のテーマ: 梨のまち神川

問合せ 経済観光課

☎0495-77-0703 FAX0495-77-3915

神川の梨の歴史

参考文献：神川町誌（平成元年発行）

江戸時代の末期頃、七本木村(現上里町)の農家が商品価値に目を付けて、梨の栽培を始めて多くの利益を上げたそうです。それを丹荘村四軒在家(現大字四軒在家)の農家が真似したのが、神川町での梨栽培の起源となるそうです。

当時は、「泡雪」、「無頼」、「赤龍」といった名称の品種が栽培されていたようです。

そうして栽培が始まった神川の梨ですが、栽培・管理に不慣れだったこともあり、病害虫の影響で植えた木が全滅することも多かったとの記録が残っています。

このような事態をなんとかするべく、四軒在家の伊藤正平は実生苗(発芽したばかりの苗)に様々な品種を接ぎ木することを試み、その結果、病害虫の被害も無くなり、梨の木は順調な成長を見せるようになりました。

もともと豊かな土壌の神川は、その後から良い品質の梨が採れるようになり、梨農家の数も増えていったようです。

確認できる範囲では、最盛期(平成3年)には栽培面積66.3ヘクタール、農家数は120件でしたが、現在(令和3年度末時点)では栽培面積19.3ヘクタール、農家数は40件となっており、ともに最盛期の3分の1程度となっています。

梨の品種紹介

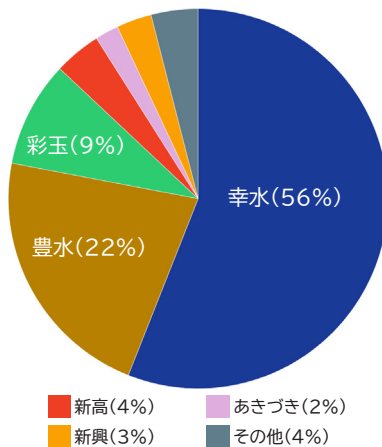
右のグラフは、神川町梨出荷組合連合会の組合員(40件)を対象に実施した「梨栽培面積調査」の結果です。

その結果を確認すると、品種別に幸水^{こうすい}56%(1,092.5アール)・豊水^{ほうすい}22%(439.8アール)・彩玉^{さいぎよく}9%(179.4アール)と3つの品種で全体の9割近くを占める結果となっています。

その中でも、「彩玉」という品種は比較的新しく出てきた品種として、近年町内での栽培面積が増えてきています。

この表中にもある「新高」と「豊水」を交配し、選抜を重ねて育成された品種であり、8月下旬～9月上旬頃が収穫時期となります。

また、「彩玉」は埼玉県のオリジナル品種であり、生産は埼玉県内に限定されていることから、埼玉ブランドとして県外に情報発信されています。



作ろう！「しゅわしゅわ梨ゼリー」

【作り方】

- ① A(右記「材料」参照)を耐熱容器に入れ、ラップをかける。
ゼラチンが溶けるまで600Wレンジで10秒ずつ加熱する。
- ② 梨は7mm角程度に切る。
- ③ ②と砂糖大さじ3を耐熱容器に入れ、ラップをかける。600Wレンジで3分加熱する。
- ④ 水と①・③を合わせて、内側を水で濡らした容器に流して冷蔵庫で1時間程冷やす。
- ⑤ ゼリーが固まったら格子に切り、炭酸水を入れてゼリーを浮かべる。



【材料 (4人分)】

粉ゼラチン…10g	} A
水…50ml	
梨(果肉)…160g	
砂糖…大さじ3(27g)	
水…200ml	
炭酸水…200ml	

梨に関する町の取り組み

①「梨直売所マップ」の発行(令和2年度開始)

神川町梨出荷組合連合会の協力のもと、町内にある梨直売所や梨の品種等に関する情報を掲載した「梨直売所マップ」を毎年発行しています。町内施設・農産物直売所等に配架するだけでなく、イベント開催時等様々な機会に配布し、「梨のまち神川」を広く対外的にアピールすることに一役買っています。



②新植・補植支援事業(平成25年度開始)

梨の木の新植(新しく苗木を植えること)・補植(苗木が枯れてできた場所に再び苗木を植えること)に必要な苗木および土壌改良剤を購入する梨農家に対し、その経費を一部負担する事業です。

町内の梨畑では、樹齢50～60年を超える老木がかなりの割合を占めている現状となっております。参考ですが、町内で最も多い品種「幸水」の寿命は、一般的に30～40年と言われています。

果樹については、基本的に樹齢を重ねるほどに着果量も落ちるため、安定した収量をあげるためには、計画的な植えかえが必要です。そのため、町として梨の木の新植・補植を推奨しており、令和3年度では17件の梨農家に補助金を交付しています。

③地域おこし協力隊(特産農業サポーター)の採用(平成29年度開始)

生産者の高齢化や後継者不足により、神川町では年々梨畑の栽培面積や直売所の数が減少していく一方となっている状況にあります。

そうした現状を打破すべく、平成29年度より国の「地域おこし協力隊制度」を利用し、梨農家の後継者育成を推進に取り組んでおり、現在は2名の隊員が梨による新規就農を目指して活動を行っています。



安田隊員



田口隊員

今回のテーマに関するご意見をお寄せください

「まちづくり通信」をお読みいただきありがとうございます。今回取り上げた「梨のまち神川」について、皆様からのご意見を募集します。下記のテーマを参考に、町民の皆さまの率直なご意見をお寄せいただきますよう、お願いいたします。意見の送付方法は下記の通りです。

【締切】

9/15(木)

①「まちづくり提案箱」に投函

【設置場所】

役場(本庁舎1階)/神泉総合支所/中央公民館/保健センター/ふれあいセンター



②「電子申請」を利用して投稿

2次元バーコードを読み取り、「神川町電子申請・届出サービス」へアクセスしてください。



<梨のまち神川に関するご意見>

※お名前、年齢、性別についての記入は任意です。

「かみかわまちづくり通信」

令和4年8月15日号

お名前

年齢

性別

男・女

テーマ

【テーマの一例】

- 梨の販売について
- 新規就農について
- 神川町の農業について など